

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2020~2021年度 No.249

9 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ



強調月間:ユース(STEP YEEP YIA)

今月の聖句

神は、キリストによって世をご自分と和解させ、人々の罪の背人を問うことなく、和解の言葉を私たちにゆだねられたのです。

Ⅱコリント5:19

・ 9月第1例会 (聖園那須老人ホーム訪問)

日時：9月25日(金) 午前10時30分～

場所：聖園那須老人ホーム

那須町寺子丙1498-2

コロナウィルスの影響を考慮して、三蜜にならない、ソーシャルスタンディングをとりながら、マスク着用をして、ホームを訪問。但し、入居者の方々との触れ合いはできません。

司会 副会長 村田 榮

開会点鐘

会長 河野 順子

ワイズソング・ワイズ信条

一同

聖書朗読・祈禱

司会者

会長挨拶

聖園那須老人ホームへの奉仕、那須ワイズメンズクラブとして出来ることについて話をお聞きする

諸報告 那須ワイズ

那須YMCA

YMCAの歌

一同

閉会挨拶・点鐘

会長 河野 順子

2020~2021年度 主題

国際会長：(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)

「価値観、エクステンション、リーダーシップ」

アジア太平洋地域会長：(AP) David Lua(台湾)

「変化をもたらそう」

東日本区理事：(RD) 板村 哲也(東京武蔵野多摩)

「変化をたのしもう！」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

8月例会データ (出席率：100%)

在籍者 6名 (内 功労会員1名) 例会出席者 6名

9月 Happy Birthday

9月10日 原田 時近 ワイズ

・ 9月第2例会 (役員会)

日時：9月4日(金) 午前10時から

場所：田村メン宅

・ 9月第1 (聖園那須老人ホーム訪問) 例会

日時：9月25日(金) 午前10時30分から

場所：聖園那須老人ホーム

巻 頭 言

子育て奮闘記第10弾 少しお休み

鈴木 保江

最近の私について、昨年4月、所属していた救急センターから移動になり、外科病棟に移動となりました。そしてこの4月よりは、訪問看護ステーションに移りました。

10年あまり、同じところにいるといろんなことに麻痺してしまい、自己研鑽もなく日々を過していました。

10年の間には、管理者研修にも参加しスタッフの育成や経営についても学び、一般で言うところの主任さんにあたるどころですか。

日赤では係長と言いますが、スタッフにとってはある意味、上司となりました。年齢的にはなってもおかしくないのかもしれませんが、私は、どちらかと言うとどこかに所属しじっくり仕事をしたいタイプなのでなかなか上司としての仕事が思うように行きませんでした。「学んだことはゆっくりこだしにすればいいよ」とアドバイスもいただきましたが、自分では人の上に立つべきではないと思っていました。少しずつ慣れてきたところでスタッフからは、係長と呼ばれるのが当たり前になってきましたが、自分ではまだまだスタッフよりでいたいと思っています。

本来なら、スタッフが悩んだり、いきづまったら上司としての言葉かけやアドバイスが必要ですがどうしても友達ようになってしまいます。ポジティブに言えば、親しみやすいと言うところで、変えられないでいます。このまま年も取りそうです。

仕事に頑張っていますが、さすがに50才をこえ体も悲鳴をあげ、アトピーがひどくなったり、腰が痛み出し病院通いが始まったりといままで元気だったけど…。

子ども達は、成長し高校1年と小学6年生になりました。早いとこ一人立ちを願ってます。



8月例会（塩谷キャンプ場での例会後、原田ワイズ宅訪問）8月24日（金）

8月第1例会（塩谷キャンプ場訪問）

日 時：8月24日（金）午前10時～

場 所：塩谷キャンプ場集合

参加者：河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生書記、鈴木、原田各メン。原田メネット。

ゲスト：塩澤とちぎYMCA総主事（宇都宮クラブ）

8月例会は、YMCA塩谷キャンプ場の現地視察を行いました。

例会開催の数週間前に、昨年同様「除草」作業を業者に依頼していたので、キャンプ場に入るとフィールドの端まで見渡せ、すぐにでもキャンプが出来るくらいの状態でした。



過去のブリテンで紹介しているように東日本大震災による福島原発事故発生時に漏れた放射線物質は、キャンプ場付近では周辺と比べて少し高い数値（国が示した安全な数値内ではありますが…）が表示されたため、大事を取って使用を休止しました。YMCAとしても再開の機会をうかがいながら9年の月日が流れました。現在の放射線数値は、数日前に塩谷キャンプ場担当のYMCAスタッフが測りに来ており、宇都宮YMCAの数値と比較すると少しですが高い数値が示されていました。

例会には、とちぎYMCA塩澤総主事にも参加頂き、点鐘・ワイズソング・会長挨拶などの後、塩谷キャンプ場の今後について意見が交わされました。「電気系統や井戸ポンプ、トイレを修繕すれば使用できる」「吊り橋も床板が数枚外れていたの修理が必要だ」「デイキャンプ場として活用し、宿泊の場合は塩谷町内の施設を使用したらどうか」など、具体的な意見が挙げられました。

宇都宮は35℃を超える日でしたが、山の中の川沿いにあるキャンプ場は涼しい風が通り抜けとても心地よく、その風を感じながら話をしていると、子ども達が自然を楽しんでいた震災前のキャンプ場の様子が目に浮かぶようでした。

1時間程キャンプ場に滞在し、その後塩谷キャンプ場開設（とちぎYMCA設立5周年事業）の中心メンバーである原田ワイズ宅へ場所を移し、報告を行い、例会は終了となりました。

キャンプ場再開は、物理的な修繕より、放射線物質の数値をどう捉えるかが課題と思われます。放射

線物質の数値に対する考えは千差万別であり、YMCAとしての着地点を早急に見出す必要があります。それから『再開するのか、しないのか』、そして再開するとしたら『何時、対象は、どんなプログラム』で行うのか、と進んでいきます。

今回の例会がこれらに向かう「一歩、となればと願っています。

尚、キャンプ場除草のかかった費用（253,000円）については、那須ワイズで負担することの報告があった。那須ワイズとしては、大変な負担であるが、とちぎYの現状を考えて、特別会計よりの支出を含めて行う。

9月第2例会（役員会）報告

日 時：9月4日（金）午前11時～

場 所：田村ワイズ宅

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生担当主事（Zoomでの参加）

協議事項

1. 8月例会を振り返って

マルイチ工業より請求書が届く、253,000円。シイタケ昆布の収益金で支払う。塩澤総主事と話し合ったことにプラスして、YMCAとしての放射線の数値がどの程度あれば活動する基準になるのか等の疑問が話し合われた。とちぎYMCAの意向の確認が大前提となる。

2. 9月例会の開催の件

9月26日（土）に遠山師宅でユースリーダーの参加とともに進める予定であったが、茶道については、11月例会に延期とし、那須聖園老人ホームに対する支援活動について、9月25日（金）午前10時30分に那須聖園老人ホームに訪問し、施設長との話し合いをすることにした。コロナウィルスに影響を考えて、施設の中に入らないで付属施設で行う。

3. 10月役員会について

10月2日（金）午前10時から田村ワイズ宅で行う。

4. 10月例会について

アジア学院の収穫感謝祭、10月10日（土）に出店をする予定。後日アジア学院より田村副会長あてにFAXが届く。

フェイスシールドの購入をする。10枚村田が購入する。

5. 植樹例会について

那須ワイズ単独の植樹例会は行わないで、10月

31日(土)オオタカの会の主催の植樹に参加する。
したがって、今回は、ガールズ等の参加は見送る。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(第90回)

田村修也

同年(明治12年)四月中米國大棟梁クラント氏日光へ来ル下野有志安生矢板野沢等率先シテ是日光輪王寺に饗ス 文作モ此事ニ関シテ一日届シテ登山ス諸氏事ヲ果シテ下山文作一人山ニ留リテ故郷ノ荒蕪ニ属シタルヲ歎キ大ニ感アリ一日縣令鍋島ニ謁シ山内荒果タル地ニ一大公園ヲ開キタレハ水石ニ乏シカラス各寺院庭中。自ラ古庭ノ形ヲ存シアルアリ是ヲ併用スレハ格別ノ費用ナラス共事速ニナラント令公ノ日日光保存ノ事ハ白石勸業課長常ニ憂苦シラレリ 同人ニ謀ラハ又能キ工夫モアルヘシト於茲文作栃木ニ至リ折柄銀行事ニテ瀧沢鈴木両氏ニ逢 公園設立ノ事ヲ談ス両氏大ニ賛成事ナラハ百円アテ寄附スヘシト於茲白石氏ニ談ス氏曰 公園モヨケレト美観ヲ保存スルニアラサレバ完満ナラスト後日安生矢板ニ謀ラ事ヲ約シ帰邑ス 四月廿七日矢板氏人參改良社設立ノ事ニテ佐久山ニ来ル依テ此期間中ノ日光保存ノ事談ス 同氏此案ヲ奇ナリトシ五月三日人參改良社上都賀郡小代村集會の時暗示用紙へ談同氏も此事ヲ苦慮スル事茲数年善ハ可急ト夫ヨリ五月七日宇都宮ニ出テ野沢始メ下野有志五十人余江書状ヲ發五月廿四日二日光ニ會合ノ事ヲ示ス 保晃會ノ業茲基ス。

十年春太田原支聴長盛岡眞氏喜連川早乙女坂改修ノ事ヲ謀リ測量費良成頓スルモ費用ノ多額ナルヲ以着業スル能ス此工事ヲ矢板文作ニ委嘱ス 依テ三大区々長諸氏ト太田原ニ合集シ半額ヲ各区ノ分贍トシ半額を本縣ニ乞事ニ決シ猶為減費種々工夫中近頃足利桐生間ノ山ヲ切開キシ郡馬縣下新田郡ニ渋沢弥作ト云者有之由ニ而矢板印南同所ニ出張渋沢ニ面會シ身分御伺同伴シテ帰邑シ早乙女坂測量ヲナサシム續テ工事ニ着手シ兩人代ル代ル是ヲ監督ス

明治九年十月地租改正公布アリ縣令鍋島公此改正手續為説諭塩那兩郡ニ出張アリシ時一日印南拜謁ス令公曰ク吾輩数年当國縣令タリ那須原ヲ公開手續アリヤト 文作阻奏曰ク同僚矢板武ト焦慮スル事数年今ヤ各所開墾牧畜ノ業起ハ政府先ニ下総ニ模範農農起サレタル証據ナルヘデ 今原野へ着手セスンバ或ハ他國人ノ有トナラン 此原野ハ先ススイヲ第一ト次ニ植林而シテ移民ノ事ヲ謀ルアリ 鍋島君其順序ヲ善シ先水路鬼怒川ニ公開通路ヲ見出スヲ以急務ツ是実地ニ就而屬ヨリ取調可上申申段御答ニ及タリ。

本年勸業博覽會ニ於テ洋種野菜数品ノ種物ヲ買入自分畑五反分二十年ヨリ十一ニケ年間栽培スルモ當時ニ有テ内國人ノ可食物ナキニ付止ム此等甚敷全ク失敗ヲ来タセリ 其内盧粟砂糖ハ区内有志ノ者好ンテ重ニ栽培セシモノ一四五名地味イ適セル哉生育至テ宜シ因テ縣廳ニ乞テ挾器廿七台ヲ製造各所ニ分配シ製造教師ヲ静岡縣下ヨリ呼寄此者ヲ以各所ニ巡回ナサシメ一時砂糖製造那塩兩郡ニ顯レーノ物産トナルヘキ勢ヲ得タリ 翌年大阪綿糖競進會ニ出品シ内地三等ノ賞ヲ得タリ然レ共人民忍耐ナキ 文作那須原開墾事ニ身ヲ寄此業ヲ捨タレハ兩三年ニシテ是モ止ミタリ明治十年一月四日勸業課附属数名太田原ニ會ス客年鍋島公ノ發意アリス談那須原水路ニ及其春矢板菅生石塚加藤臼井六氏ト岩崎村水源ニ至リ夫ヨリ百村ヨリ東小屋是ハ長嶋堀山ノ内堀ノ残況ヲ見中内村ヨリ横林石上山田矢板川サキゝ一ノ岡ヲ經テ荒川ニ達シ氏家ニ至テ鬼怒川支流草川ニ達ス連日三日ヲ要ス夫ヨリ同年中此水路ヲ見當為矢板印南此原中合廿六岡ヲ跋渉ス 是ハ水路トナルヘキ低地ノ様ヲ見出ス為又此原砂礫ノ已ニ而水ハ決シテ保ツ間敷ト申説古来ノ人ノ唱ル處ナルヲ以地質ヲ調査スル為ニ原野散在ノ村井中ニ下リテ地質ヲ見分スル事五六回又所々高キ所識取をナスタリ。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

今年の夏休みは例年とは異なり、コロナウィルス感染予防の対策など制約された環境で、どのように過ごすかを工夫され、それぞれのご家族が大変であったことでしょう。ただ、そのようななかにあっても、ご家族で楽しく夏を過ごされたかと思えます。この2学期も、スタッフ一同、子どもたちのために努力いたしますので、宜しく願いいたします。

さて、1学期に実施した職員ストレス・チェックテスト結果は、行事等はなかったのですが昨年度より高い結果が出ました。5月に保護者の皆様にご協力いただいた全国認定こども園協会の「新型コロナウィルスに係る就学前の子育て家庭への緊急アンケート調査報告」でも、保護者の半数以上が、自身の心身に変化を実感されている報告がありました。職員ストレス・チェックテストの本園の結果をさらにみていきますと、ストレスが昨年度より、少ししか高くない部門がありました。その部門の職員に聞いてみたところ、「仕事を楽しむようにしている」とのことでした。私は、書家の相田みつをさんの「し

あわせは いつも自分のところがきめる」ということばを思い出しました。コロナ禍の現実は同じですが、気持ちの持ち方でうまくストレスをコントロールしましょう。

それから、前述のストレスにも関係するのですが、子どもたちが大人になるころ Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった VUCA (ブーカ) の時代になるといわれています。しかし、一過性かもしれませんが、このコロナ禍で一気に現実になりました。正解のない時代は、その時その時の適解を求めて善く生きることが求められ、学力だけでなく非認知能力と言われる折れない心(レジリエンス)、自己統制力(感情・意思・行動)、価値観の違う人たちと一緒にやり遂げる力が大切になります。これからを担う子どもたちには、幼児期にこの非認知能力の揺るがない基礎を育む必要性をより以上に感じています。

ところで、私は、しむらけんさん、岡江久美子さんの死によって、死を身近に感じるようになりました。以前、子育てに造詣の深い佐々木正美先生*1の講演があり、アルフォンス・デーケン神父*2(元上智大学文学部教授)のことばを紹介されました。ご存じの方も多いと思いますが、デーケンさんは「死の哲学」で有名です。教育においても「死の教育(death education)」の分野で影響を与えた方です。

デーケンさんは、「子どもたちと一緒に喜ぶ、子どもに喜びを与えられることが、自分の喜び」と述べています。「死の教育」は言い換えると「生きる教育」でもあるのです。ただ生きるのではなく、今をどのように生きるかということが重要であり、そのなかで子どもたちと一緒に喜ぶことはとても大切であるということです。

また、佐々木先生は、今は「子どもと喜びを分かち合うのではなく、子どもに喜びを与えてもらうような親が増えている」とも言っていました。一方、「自子中心主義」の親も増えています。デーケンさんは子どもたちという複数形を使っていました。私たち大人は、子どもたちと喜びを分かち合える一番素晴らしい環境にあるのです。

*1「こどもへのまなざし(1998. 福音館)」

「子どもの成長に飛び級はない(2006. Gakken)」

*2「死とどう向き合うか(1996. NHK 出版)」

「生と死の教育(2001. 岩波書店)」

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

「個体の生を超える生」

新型コロナウイルスの感染者に対する嫌がらせや差別が後を絶たないと言う。この近辺でもひどい嫌がらせに耐えかねて別の場所に引っ越したとか、命を絶ったとか、信じられないような話を聞く。なぜそんなことが起きてしまうのか。感染したことは罪なのか。その人はその地域で長い年月を過ごし、地域の他の人々と共にその地域の歴史を紡ぎ、地域社会に貢献してきたはずであろうに、新型コロナに感染した途端それまでの友情も功績も忘れ去られ、一瞬にして「犯罪者」にされてしまった。そんなことがあっていいはずがない。

そんなことを考えていた8月5日の朝、朝日新聞のある記事が目にとまった。東浩紀さんという批評家へのインタビュー記事だったのだが、今回はその内容をまとめてみたいと思う。

東氏は4月6日の政府の新型コロナの感染拡大予防のための緊急事態宣言の前日に以下の内容のTwitter を発信した。「人口の1%が死んでしまったら大変な事態だけれども、運よく生き残った99%の人たちには「社会を守っていく」という「責任」がある。」これに対し多くの人から様々な反応があったということからインタビューは始まる。

「社会を守る」ということを東氏は「自由で文化的な生活を守る」ことだと言っている。つまり、自分や周囲が1%の感染者に入らないことを祈りながらも、もし犠牲にならずに済んだら、「自由で文化的な生活」を守る責任があるのに、多くの人はそのことに気づいていないというのだ。それはなぜなのか。

「一人一人の命を何よりも大切にすること」はとても素晴らしいことだが、「個体の生」、自分一人の生命を守ることがあまりにも強調されてしまうと、「生き延びること以外価値を持たない社会」になってしまうというアガンベンというイタリアの哲学者の指摘を紹介し、それが社会の弱さにつながっていると東氏は注意を促す。同時に「個体の生」の維持とウィルス危機を口実にして権力の行使が簡単に強化されていることに対しての危機感も訴える。

また「生き延びること以外価値を持たない社会」では、「人々が互いに分断されて、連帯できなく」なり、哲学者トーマス・ポップスが呼ぶところの「万

人の万人に対する闘争」的な状況が生まれると警告する。その例がコロナ禍でも見られたトイレトペーパーやマスク、消毒用品などの「買占めパニック」だ。

東氏はさらに「一番大切なのは個体が生き延びることだ」というのは幻想だという。私たちは実際には「他の人々と共に社会を作って生きている」し、「人間は決して個体の生（自分ひとりの生命）のみを至上の価値として生きている存在ではない」という。そして、「命とは個体の生を超えているもの」だと主張する。今私たちが生きているのは過去があったからだし、歴史の資産を未来に伝えていくことで未来に流れができる。それが「命」というものだという。

だから「自由で文化的な社会を伝えていく」こともまた命をつなぐことであるし、命を守ることだと言っている。それなのに今、現実にはこれらがなされていない。国際的な交流もできないし、次世代の教育に大きな障害があるし、劇場が潰れるなどして文化活動の機会も激減している。いつの間にか、それまで大事にされてきたはずの価値に対して社会が以前より鈍感になってしまっていると危機感を示す。

さて皆さんはどう思われか。私は自分の「個体の生」を超える命の在り方を深く考えたいという衝動に今駆られている。

YMCAだより

【とちぎYMCAサマープログラムが終了しました！】

7月中旬よりスタートしましたとちぎYMCAサマープログラム（ウェルネス・イングリッシュプログラムを含む）が予定通り実施され、今年の夏は暑さ以外にもコロナウイルスなどの心配事などもありましたが大きなけがや事故もなく無事に終了いたしました。プログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

那須YMCAでは、大学生のユースボランティアリーダーが各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に楽しみながら学び、成長することができました。

YMCAのプログラムにはCaring(やさしくする)、Honesty(しょうじきになる)、Respect(人を大切におもう)、Responsibility(できることは自分からする)というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉

しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。



【とちぎYMCA・那須YMCAの9月の予定】

- ・9/12(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(ゴミ作り)
- ・9/13(日) Yキッズ@ツインリンクもてぎ(アスレチック)
- ・9/19(土)～21(月) 全国リーダー研修会@オンライン(Zoomにより参加)※今回は3名のリーダーがとちぎYMCAより参加します。那須YMCAからは1名のリーダーが参加します。
- ・9/19(土) サタデークラブ@宮崎りんご園(りんご狩り)
- ・9/26(土) サタデークラブ@宮崎りんご園(りんご狩り)

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名)
2. 学校名
3. 出身地
4. YMCAに入ったきっかけは?
5. 思い出に残った活動とその理由は?
6. 今後の進路は?
7. YMCAに一言



- ① 修理恵美(ぐら)
- ② 国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科
- ③ 新潟県
- ④ 友達からの紹介
- ⑤ 手作りてつどう隊

小さい電車から人が乗れるくらい大きな電車、様々な街並みをたくさんメンバーと一緒に作ることができて楽しかったから。

⑥ 言語聴覚士

⑦ 自分では思いつかないような発想を見ることができて良い刺激になります。活動を通して自分自身も成長していきたいです！